

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 10 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204649		
法人名	社会福祉法人 平和会		
事業所名	グループホーム さつき		
所在地	広島市佐伯区五月が丘5丁目2番3号 (電話) 082-941-7088		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204649&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成22年10月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域との連携プレイ、入居者様の自立支援に努力、支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

商店街の一角にあり、利便性のある3階建てのホームである。1階は、ディーサービスが併設しており、ボランティアのチンドン屋やオカリナ演奏時には、一緒に参加することもある。年1回地域で開かれる「まるごと展示会」には、積極的に参加され、ホームも会場となっている。ホーム長を中心に日々の生活の中での利用者の行動、言葉を把握して、その人らしい生活が出来るように支援している。「地域に愛され信頼され、喜ばれるホームづくり」という理念のもと、頑張っておられるホームである。
--

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着の意思表示を明確にした理念を掲示し、職員間で共有している	理念を掲げ、質の高いサービスに努めると共に、地域に愛され喜ばれるホームづくりを目指している。	理念に沿った目標を各フロア毎にたて、具体化して行動に移しやすくすることにより、より質の高いサービスを提供されることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事に積極的に参加している 民生委員、町内会の役員、インフォーマル関係者様に積極的に声掛けし交流に努めている	夏祭り、敬老会、地域清掃、五月サロン（ふれあい会食）、ソーメン流し等、地域の行事に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	経営者が近隣の方々と面識があり交流もされている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域関係者や家族・利用者・職員の参加を得て定期的に開催されている サービスの向上、地域に愛される施設等に取り組んでいる	2ヵ月に1回、開催しており、利用者、家族、女性会、社協職員、福祉協力員、包括支援センター職員、管理者等が参加し、サービスの向上、地域に愛される施設等、取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域住民への認知症に対する理解を求める活動にも参加している	包括支援センターの方が主催され、地域ネットワーク会議を年2回、開催され、社協会長、区役所からは、健康長寿課職員、町内会長等が出席され高齢者の為の人権擁護等の話し合いをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修を行い、拘束をしない努力をしている	施設内研修を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者、職員は虐待が見過ごされる事のないよう通報・防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、職員は研修に積極的に参加し、研修を通して全職員に理解と質の向上に努めている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約には充分に時間をとり家族様に説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情等あれば運営推進会議にて取り上げて検討し対応策を考える	日々、利用者や家族と関わる中で、職員から声掛け等、行い、話の中から要望や相談を受け、出された意見は、検討会を開き、改善に取り組み、サービス提供に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が意見を出しやすい体制をとっている	月1回、職員会議で職員から意見を聴取し、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のやる気、入居者様の期待に添って働けるよう働きやすい職場づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格所得支援体制も整えられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設、相互研修を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員の入居者様に対する態度、やさしい雰囲気です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居者様、家族様の不安を安心に変えることに努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員が対応にあたり、家族様などに安心して頂けるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご自身で出来る部分を見極め一緒に過ごしながら共に良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	小さなことでも家族様に伝え、一緒にさりげなく支援していくことに努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様からの情報・意見をしっかりと聞き、面会時に対応している。	馴染みの場所、なつかしい場所への外出支援(町内行事参加等)を行い、馴染みの関係が切れないうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は入居者同士のトラブル等に気を配り、解消に努めて不安・支障を生じさせないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談窓口を設け、必要に応じて対応が出来るようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の生活歴等カンファレンスを通して話し合っている 担当となった職員は入居者様をよく観察している	利用者の言葉にならない思いを大切にしている。 言葉で表すことの出来ない利用者は、担当者が、把握に努めている。	最近では、外出希望が、多く見られる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人様、ご家族、かかりつけ医等から情報を出来るだけ収集する努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現状を記録し、総合的に判断し支援していくように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族様との面談・本人様の希望など把握したうえでカンファレンスをおこない介護計画を作成している。必要時にはかかりつけ医に意見をもらっている	利用者、家族、必要があれば、かかりつけ医のい けんを反映した介護計画を職員全員で作成されて いる。又、3ヵ月に1回は、見直しを行っている。	利用者の身体能力の維持に注力し、レクリエーシ ョン(風船バレー、脳トレ、カラオケ、貼り絵等)を毎日、行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	経過記録に結果等を記入し情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様の要望に応じて対応がとれるように体制を整えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日頃から町内会との連携をとって対応が出来るようにしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医の継続や協力医に変更等選択して いただいている	24時間対応の協力医による定期的な往診があり、又、入居前のかかりつけ医にかかっている利用者もいる。その方は、週4回受診する事で、精神的に安定されていて、適切な支援が、なされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と密に相談アドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・家族との連携が取りやすい関係がつけられている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医の往診、相談、指導の連携を図っている。家族様への説明もしていただく事もある	重度化、終末期における施設の方針等、家族への説明が行われている。家族の意向を確認しながら、出来る限りの対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルに沿って俊敏に対応している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回以上の防災訓練をおこなっている。地域推進委員会、町内会への働き掛けで常に協力体制が得られるようにしている。	年2回、防災訓練を併設のデイサービスと合同で行っている。非常災害時には、自主防災会の連絡網があり、町内会、女性会等と一緒に協力体制が、築かれている。	スプリンクラーは、来年末までに設置予定である。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「個人情報」を掲示し取扱注意等職員の徹底を図っている	プライバシー保護に対する意義や理解を職員全員が、共有しており、一人ひとりに合った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個人の遺志を尊重し、自己決定を基本にホームで生活できるように支援している。入居者様からの訴えは充分に聞くようにつとめている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の意見・要望があれば朝の申し送り等で職員全体に伝達し共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様の希望にて、理容院・美容院の利用を支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様それぞれの能力に応じて一緒に行っている	食事が楽しみなものになるよう安全を確認しながら、準備や片付け等、個々の能力に応じて共に行っている。	昼食は、委託業者から、届いているので、こちらの希望をふまえた献立が、たてられる様、話し合いをされる事を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録・管理している 水分補給のタイミングをとり、すすめている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を取りその方のパターンを掴む 排泄は職員が付き添っている	排泄のパターンを把握して、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表に記入し医師と連絡、コントロールしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の希望に合わせ出来る限りいつでも入浴できるようにしている	入浴の時間帯、回数は、概ね決まっているが、個々の希望に合わせ、出来る限り、いつでも入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	必要に応じて臥床していただいている 昼夜逆転を起こさないよう日中は出来る限りフロア等で過ごして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の処方をするに確認できるようにし、疑問等あれば看護師に確認している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割, 楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 嗜好品, 楽しみごと, 気分転換等の支援をしている	入居時にアセスメントをしっかりと取っている 見直しを繰り返し、希望がケアプランに活かせるようにしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来る限り希望に添えるようにしている レクの中に散歩を取り入れている	月1回は、ドライブに出かけ、途中、おやつを食べることを楽しみにしておられる。 ある利用者は、週1回、訪問介護の方と一緒に、野球観戦や外食を楽しまれている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	殆どの方は本人様、家族様の了解を得て「預かり金」として事務所で管理し必要な時お渡ししている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に対して対応している		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングが広く、皆様が集まりやすいようにテレビ・ビデオの設置などいろいろ工夫している	居間には、季節感を取り入れた飾りやソファ、テレビ、テーブルを配置し、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室とリビング、共有部分を自由に使い分けている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には自分の家具を持ち込み「自分の部屋」という風にいろいろ工夫している	居室には、使い慣れたものが、持ち込まれ、大切にされている家族の写真等が、飾ってあり、落ち着いて安心して暮らせる個室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、歩行器・車いすのかたも自立した生活が送れるように支援している 自立支援・尊厳を大切にしている		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム さつき

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	☐	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム さつき

作成日 平成 22年 10月 22 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の意識のバラつき	理念を活かした質の高いケア	各階にて理念に沿った目標をたてる。	一年間
2	13	研修で受けたことを他の職員に広げられない	さつき全体のレベルアップ	研修後、申し送り、会議等で、必ず全体に送る。	一年間
3	26	老化による体力低下	利用者の方が、楽しく自立した生活を過ごす	仕事内容を変更し、レク（生活リハビリ）の時間を増やす。	一年間
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。